

島網天中心

治兵衛 (じへい)

孫右衛門 (まごえもん)

小春 (こはる)

おさん

客入れ

暗転

照明、ゆつくりと明転

舞台上、小春の膝枕に寝ている治兵衛。

治兵衛、ぼんやりと宙を見ている。穏やかに佇む小春。

治兵衛 なあ、小春。

小春 なんです、治兵衛様。

治兵衛 いや、何でもない。

小春 なんです、治兵衛様。

治兵衛 ……

小春 なんです、治兵衛様。

治兵衛 ……

小春 治兵衛様。

治兵衛 ……

小春 ……

治兵衛 俺と死ぬるか。

音楽 F.I。

表情が締まる、小春

治兵衛 いや、忘れてくれ。

小春 ……

治兵衛 ……

小春 嬉しゅうございます。

小春は、嬉しゅうございます。

治兵衛、起き上がる

治兵衛

良いのか。

小春

何を私に伺いたてる必要がございましょうか。

小春は今、心の底から、嬉しゅうございます。

私の心を治兵衛様に見せることができるのなら、一つも隠さず、お見せしたい位でございます。

小春の心は、二年前から、治兵衛様の物。

この身体が治兵衛様の物になるためには、共に死ぬしかないことは、分かっております。

何を私に伺いたてる必要がございましょう。

治兵衛

いや、駄目だ駄目だ。

俺だけならまだしも、お前にも汚名が

小春

治兵衛様。

この世を捨てる私たちに、何の汚名を恐れる必要がありません。

治兵衛

…

そうだな。…、そうだな。

小春

…

治兵衛

ありがとう。

小春

…

音楽 F.O.

照明、暗転

照明、ゆつくりと明転

舞台上、小春が座っている

照明、影用

浮かび上がる、孫右衛門。酒を飲んでいる

孫右衛門

小春殿。

今宵は月が綺麗だ。

そなたもこちらに来て、月を見ないか。

昔から、新月に願う願い事は、よく叶うといわれている。

そなたにも何か願うことがあるらう。

どうじゃ。

小春

…

どうして、そのようなことをおっしゃるのですか。

孫右衛門

浮かぬ顔をしておる。

小春

…

孫右衛門

色街とは、華やかなところではないのか。

ずっと押し黙ったまま、気味の悪い女郎だと思われても仕方ない。

何か思うことがあるのであらう。

小春 ……

孫右衛門 先ほど、女将から（聞いたのだが）

小春 お侍様。

孫右衛門 ……何だ。

小春 同じ死ぬにしても、十夜（じゅうや）のうちに死んだ者は成仏できるといいますが、それは真（まこと）のことでございましょうか。

孫右衛門 そんなことを拙者が知るわけがなからう。
檀那寺の住職にでも聞けばよからう。

小春 そうですね。
それなら、刃物で自害するのと、首をくくるのでは、どちらが苦しいのでございましょう。

孫右衛門 どちらが苦しいか、試したこともないわ。
そのようなことを問うのもいい加減にするがよい。

小春 ……

孫右衛門 小春殿。
女将から聞いたのだが、そなたには、治兵衛という深い仲の客がいるらしいな。
宵からのそなたの様子、そなた、治兵衛とやらと心中するつもりと見た。
違いあるまい。

小春 ……

孫右衛門 死神にとりつかれた者の耳に、意見も道理も入るまいと思いが、
心中しようとは、愚の骨頂だ。
男の無分別は責められずに、男の親戚一族は、そなたを恨み、万人に死に顔をさらして
恥をかくことになる。
成仏できぬはもちろん、二人で地獄へもやすやすと落ちることもできん。
初対面ながら、武士の役目として、見殺しにはしがたい。
金でかたがつくことであれば、五両、十両の金なら、用立てもしよう。
決して他言はしない。
そなたの本当の心の内を打ち明けてみるが良い。

小春 ……

孫右衛門 ……

小春 お侍様。
もつたいないお言葉でございます。
馴染みも縁もない私ごときに、情け深いお言葉、涙がこぼれるほどに身に沁みます。
いかにも。
私は治兵衛様と死ぬ約束をしました。
……
十月前のことです。
年が明けて早々。
ちらりちらりと雪の舞う日でした。
私たちは、親方に私たちの仲がばれて、なかなか会えなくなりました。

治兵衛様にはさしつかえがあつて、急に請け出すこともできず、かといつて、私には五年の年季が残っていました。

誰か他の人に身請けされては、治兵衛様には面目も立たず。

いつそ、死んでくれるか。

ええ、死にましようど。

引くに引けない義理に責められ、

心中を言い交したのです。

孫右衛門 治兵衛とやらとは、いつ心中するつもりなのだ。

小春 わかりませぬ。

治兵衛様が機会をかんがえ、合図をきめて、いつとも分からぬ、その日送りの儚い命でございます。

孫右衛門 …

小春 お侍様。

小春の真の心うちを聞いていただけますか。

孫右衛門 言つたであらう。

そなたの本当の心の内を打ち明けるが良いと。

小春 …

命は一つ。

薄情な女と思われるのは恥ずかしいことではありますが、その恥を忍んでも、死にたくなひのが一番でございます。

どうか、どうか、死なずに済むよりに計らつていただけないでしょうか。

4

照明、影用アウト

治兵衛登場

治兵衛 どういうとだ。

小春 …

治兵衛 小春、どういふことだ。

小春 治兵衛様。何故ここに。

治兵衛 どういふことだと聞いている。

この男と話していたことは、真か。

小春 …

治兵衛 今まで俺と交わした言葉は、全て嘘だつたというのか。

俺は三年もの間、お前の嘘に騙された大馬鹿だつたというのか。

小春 お侍様。

お願いがございます。

今年中、いや、来年の二月、三月のころまで、客となつて、私と逢つてはくださいませぬか。

その男が死ぬために来るたびに、邪魔してくださらぬか。

自然と手が切れれば、先方も殺さず、私も命が助かります。
なんて不運なめぐり合わせで死ぬ約束をしてしまったことか。
思えば悔しゅうございます。

治兵衛

何を言っているのだ。

小春

小春、何を言っているのだ。

そのままでございます。

先ほどから聞いていたなら、お分かりになるでしょう。

小春の真の心の内でございます。

治兵衛

::

おのれ。

この安女郎めが。

我慢ならぬ。

堪忍ならぬ。

治兵衛、小春を叩こうとするが止まる

治兵衛

兄さん。

小春

兄御様。

治兵衛

何故そのような格好を。

::

小春の本心を。

小春

::

治兵衛様の兄御様でございましたか。

どれだけ兄御様が治兵衛様を奥様を、心配なさっていたのか、……意見は、みなごもつともでございます。

私の本心は先ほど申し上げた通りにございます。

安女郎の一時の気の迷い。

女郎は、どこまで行っても女郎にございませぬ。

私の身体を流れる女郎の血を恨みまする。

これにて、治兵衛様も私も死なずに済むと思えば、今の恥も忍ぶことが出来まする。

治兵衛、床を叩く

治兵衛

兄さん。

俺が悪かった。

俺が馬鹿だった。

足掛け三年、この女狐に騙され続け、親類一族、妻子まで疎んじてきた、俺が馬鹿だった。

後悔千万。

もはや何の未練もありません。

もちろん、こんな所に二度と足を踏み入れることもありません。
兄さん、俺が馬鹿でした。
大馬鹿野郎でした。

治兵衛、懐から守り袋をとり

治兵衛 お前も出せ。
持っているはずだろう。

小春、自分が持っていた守り袋を取る
治兵衛、それを取り上げ

治兵衛 兄さん、この守り袋の中に、俺たちが交わした起請が入っています。
これを取り戻した以上、恋も情けもありはしません。
兄さんの方で、火にでもくべてください。
最早少しの時間もお前の面を見たくもない。
兄さん、戻りましょう。

治兵衛、退場

小春、声をあげて泣く
音楽、C.H。
照明、ゆつくりと暗転
音楽、F.O.

照明、ゆつくりと明転

治兵衛、ゆつたりと入場
やりきれない表情で座る、そして、横になる

照明、影用

おさん 旦那殿、どうしました。
治兵衛 …

治兵衛、起き上がり

治兵衛 どうもしないよ。

おさん 浮かぬ顔をしていますよ。

治兵衛 西日が眩しただけだ。
すっかり、日が低くなった。
冬が来るんだな。

おさん

…

曽根崎が忘れられませんか。

治兵衛

何を言う、そんなことがあるわけがない。

あのような薄情な女に、一時でも心を奪われていた自分が情けない。

お前にも、本当に迷惑をかけたと思ってる。

これからは、俺の全てを入れ替えて、商いに、お前たちに尽くしていくことを心に決めている。

あの女のことなんぞ、一瞬でも思い出したくもない。

おさん

何かあったんですか。

治兵衛

…これが罰というものなんだろうか。

一瞬でも思い出したくないと思えば思うほど、余計なことが耳に入ってくる。

おさん

何が耳に入ってきたのですか。

治兵衛

俺にもお前にも、一切関わりのないことだ。

おさん

旦那殿。

教えてください。

一時の気の迷いとおっしゃっても、旦那殿の心を奪われた私には聞く権利があるはず。

今はここにいる旦那殿が、耳に入った噂のせいで、明日には、ここにいないという不安を私が持ったとしても、仕方ありません。

何をお聞きになったのですか。

治兵衛

…

あの女。

俺と縁を切つて、まだ十日も経っていないというのに、身請けされるんだぞうだ。

俺に良いことを言ってる、一方で、この世知辛い世の中でも、身請け金を用意できる男にも、上手いことを言つてたに違いない。

俺は悔しくて悔しくて。

自分の馬鹿さ加減が悔しくて。

…

たとえ、あなたと縁が切れ、添われぬ身になろうとも、決して請け出されたりはしません。

仮に金の方で親方から請け出されるなら、もの見事に死んでみせましょう。

…

どの口が言った。

女郎の口は、人の口ではない。

最早何の未練もない女だが、

胸が張り裂ける思いだ。

身が燃える思いだ。

おさん

…

治兵衛

…

すまない。

おさん

死ぬかもしれませぬ。

治兵衛 …
死ぬはずがなからう。
あの薄情者が、死ぬはずがなからう。
俺と縁が切れて、心晴れやかに、この先のことに馳せているに違いない。

おさん 死ぬかもしれませぬ。
いや、きつと、死にます。

治兵衛 どうした。

おさん …

治兵衛 おさん、どうした。
何故に泣いている。

おさん 私は、私は、とんでもないことをしてしまいました。

治兵衛 おさん、どうしたというんだ。
お前が何をしたというんだ。
お前は何もしていない。
これは、俺がしてきたことに対する、お天道様が、仏様が、神様が、俺に与えた罰だ。
お前は何もしていない。

おさん 違います。
違ふんです。

治兵衛 何が違ふというんだ。

おさん このことは、一生言いまいと思つていました。

治兵衛 …

おさん。

おさん 大事なことを打ち明けます。

治兵衛 …

おさん 二人の手を切らせたのは、このさんが仕組んだこと。
小春殿には、ほんの少しの不誠実もなかつたんです。
このさんが、全て仕組んだことだつたのです。

治兵衛 どういうことだ。

おさん この十月ばかり、あなたが死のうとしてのる気配を感じてました。
きつと、小春殿との心中を考えてるに違いない。
私とて、あなたと夫婦の契りを交わした間柄。
どんなにあなたの心が、小春殿の所にあるうと、私はあなたを嫌いになつたわけでは
ございません。
あなたが死のうとしているのが、悲しくて、悲しくて。
恥を忍んで、小春殿に、手紙を書きました。

治兵衛 …

おさん 弱い女どうし、互いに助け合うものと言いますから、思いきられぬところを思い切り、
夫の命を助けてはくれませぬか。頼みます。頼みます。

治兵衛 …
小春はなんと。

おさん 身にも命にもかえられぬ大事な殿御なれど、引くに引かれぬ義理にからむことと思ひ、
思いきりますと。

治兵衛 …

おさん これほどの賢い女子（おなご）が、あなたとの約束を違えるはずがございましょうか。
小春殿は、きつと死ぬ気でございます。

治兵衛 …

おさん 助けてあげてください。

治兵衛 おさん。

おさん 助けてあげてください。

治兵衛 しかし

おさん このまま、小春殿を死なせてしまつては、女どうしの義理が立ちません。
助けてあげてください。

治兵衛 …

おさん …

治兵衛 お前はどうか。

仮に手付けを払つて、小春の命を助けて、身請けしたとして、その後、お前はどうか。

これは、全て俺がしてきたことへの罰だ。

小春が死んだとして、その罪を背負つて生きていかなければいけないという、俺への罰
だ。

お前が気に病むことではない。

おさん 私は子供の乳母か飯炊きか。

隠居でもしましょう。

治兵衛 できぬ。

おさん 好きなのでしょう。

治兵衛 …

おさん 好きなのでしょう。

治兵衛 …

おさん 何故に男と女の出会いには、一度きりではないのでしょうか。

一人に一度だけの出会いならば、このような苦しみはないはずなのに。

不思議なものです。

憎いはずの小春殿が、…

小春殿が、このままでは悲し過ぎます。

音楽、C.I.

照明、ゆつくりと暗転

音楽、F.O.

照明、ゆつくりと明転

舞台上、小春が座っている

治兵衛、ゆつくりと登場

小春 治兵衛様。
治兵衛 …
小春 どうしてここに。
治兵衛 全て聞いた。
小春 ええ、身請けされることになりました。
まだ私に言い残した、蔑む言葉がありますか。
治兵衛 おさんから、全て聞いた。
小春 …
治兵衛 俺と死んではくれまいか。
小春 なりませぬ。
あなたと死んでは、おさん殿への義理が立ちませぬ。
治兵衛 もう良いのだ。
小春 …
治兵衛 もう良いのだ。
小春 どういうことでしょうか。
治兵衛 おさんとは、もう会うことができぬ。
小春 …
治兵衛 離縁をさせられた。
小春 …
治兵衛 勘の鋭い女だ。
今日に限って、やたらとお前のことを聞きたがった。
お前に身請け話があるということ、
お前が俺以外の男に身請けされる位なら死ぬという話をしたこと、
何も知らずに、俺がお前を罵っていたら、
おさんが、全てを教えてくれた。
おさんは、何と言ったと思う。
俺に、お前の身請けをしろと。
俺は出来ぬと言った。
おさんのことが哀れで哀れで。
自分のしてきたことの罪の大きさに。
だが、おさんは譲らなかった。
このまま、お前を死なせれば、女どうしの義理が立たぬと。
自分は、乳母でも飯炊きでも、隠居でもしてかまわないと。
小春 …
治兵衛 …
お前の身請けの手付けの金を、おさんが用意している時に、鼻がきた。
小春 おさん殿の、父御が。
治兵衛 問答無用で離縁だ。
おさんが必死で説得しようとしてくれたが、もはや耳に入る言葉などない。

小春 おさん殿は。
治兵衛 その場で連れて行かれた。
小春 ……
治兵衛 小春、俺と死んでくれまいか。
俺には、何もない。
おさんと会うことも、連れ添うこともできぬ。
かといって、お前を身請けする金もない。
俺にあるのは、お前たちに対する罪だけだ。
小春 治兵衛様。
治兵衛 ……
小春 治兵衛様の罪は、小春の罪でもありません。
断る理由がどこにあるのでしょうか。
遊女が好きな男と一緒にになれるのは、地獄しかありません。
治兵衛 ……
小春 ……
ありがとうございます。
お供しましょう。

二人、中央パネルの裏に移動

照明、影用

パネルの裏で手を繋ぐ

治兵衛 どこへ行こうか。
北か。南か。西か。東か。
小春 どこへ行こうと、私たちの行く先は、地獄以外にありませぬ。
治兵衛 そうだな。
小春 ……
治兵衛 ……
何を考えている。
小春 衆生済度（しゅじょうさいど）が思ひままにできるならば、遊女がこの後は、決して心
中せぬように、守ってあげたいものです。
治兵衛 後悔してるのか。
小春 まさか。
私は幸せにございます。
……
治兵衛様は、何を考えですか。
治兵衛 ……
何も。
小春 手が冷とらございます。
治兵衛 ……

小春
小春 小春。
なんですか。

治兵衛 済まぬ。

小春 ……

治兵衛 ……

二人、手を放し、パネルの両側から舞台上へ

照明、影用アウト

照明、舞台全体

治兵衛 こうやって歩いていても、ここが死に場所だというのは、どこにもない。
ここで死のう。

小春 ……

お願いがございます。

治兵衛 何だ。

小春 私をここで殺してください。

そして、

治兵衛様は、少し離れた導り場所で。

治兵衛 ……

何故。

小春 おさん殿との義理がございます。

二人死に顔を並べて、心中したと噂になれば、おさん殿に合わせる顔がございませぬ。

殺してくれるな。殺しますまい。と交わした手紙の約束を無にすることはできませぬ。

世間の全ての人が私たちが軽蔑されても、おさん殿にだけは、軽蔑されたくありませぬ。

遊女の私に恥を忍んで、手紙をよこした、おさん殿の気持ちを裏切りたくはありませぬ。

治兵衛 おさんとは、もう離縁したのだぞ。

他人と他人だ。

何の義理立てが必要だというのだ。

小春 何を愚かなことを言ってるのやらですか。

私たちはこれから死に行く身。

共に並んで死んだとして、この身を地獄へ持つていくことができますか。

魂だけは離れぬように絡み合って、地獄だらうとどろいたらう、一緒に行くのではございませぬか。

お願い申しあげます。

小春の、この世での最後の願いにございます。

治兵衛 ……分かった。

それならば、最期の時は一緒なれど、命を捨てる手段も、場所も変えて、おさんを立て

とおす義理を示そう。

小春 治兵衛様。

治兵衛 その帯紐を俺に。

小春、帯紐を治兵衛に渡す

治兵衛 俺はこれで首をくくろう。
小春 ∴
治兵衛 別々の場所で死ぬのであれば、共に居られるのも後僅か。
こつちへ。
小春 ∴
治兵衛 何故泣くのじゃ。
小春 刃で死ぬのはひと思い。
首をくくる治兵衛様の苦しみを思うと。
治兵衛 何をいう。
死ぬ苦しみに、どちらが劣るということは何もない。
案ずるな。
こつちへ。

治兵衛、小春の手を握る

治兵衛 後僅かだな。
いや、その先は、ずっと一緒だ。
小春 手が冷とろございます。
残していく人たちのことが、気がかりなのですか。
治兵衛 変なことを言うな。
これから死のうと言う時に、何を言うのだ。
小春 申し訳ございませぬ。
治兵衛 言うな。
小春 申し訳ございませぬ。
治兵衛 言うな。
俺が悪いのだ。
俺が悪いのだ。
何故、俺の様な大馬鹿野郎に、小春も、おさんも
俺は誰も幸せに出来ぬ、駄目な男だ。
何故、そんな俺のために、
俺は俺の周りの全ての人を不幸にする。
小春 女子というのは、そういうものでございます。
そんな治兵衛様が可愛らしいのでございます。
支えたいのでございます。
連れ添いたいのでございます。
治兵衛 ∴
小春 何故に男と女の出会いには、一度きりではないのでしょうか。

治兵衛 一人に一度だけの出会いならば、このような苦しみはないはずなのに。
：
小春 ：
治兵衛 泣くな。
小春 後まで残る死に顔に、泣き顔は残すな。
残しません。

小春、にこりと笑う

二人立ち上がる

治兵衛 小春、許せ。

治兵衛、小春を刺す

紙吹雪

小春、身体力が抜ける

最後の力を振り絞って、治兵衛の顔を両手で包み

小春 許します。

音楽、C.H.

小春、倒れる

治兵衛、後ろのパネルに移動

首をくくる

照明、影用

照明、暗転

了